

社団法人 日本地すべり学会

## 中部支部ニュース

第  
8  
号

〒380-8553

中部支部事務局

長野市若里 4-17-1

信州大学工学部

社会開発工学科内

## 巻 頭 言

平成 18 年度は、7 月の梅雨前線による豪雨により、岡谷、諏訪地域では、3 日間で年間降水量の約 2 ヶ月分に相当する多量の雨を降らせ、土石流等の土砂災害により、10 名の死者が発生する甚大な被害をもたらしました。また、この豪雨により、佐久市の駒込地区をはじめ地すべり災害も県内各地で発生し、この災害により多くの住民の皆さんが避難生活をする等、住民のみなさんの不安な生活が続きました。

こうした中で、地すべり対策の技術が迅速な警戒避難体制の整備や復旧に向けて大いに役立ったことに誇りを感じるのと同時に、対策に当たられた皆さんに感謝申し上げます。

中部支部は、会員の皆さんの積極的な参加により活発な活動が続いていることを心より感謝申し上げます。

平成18年度の活動内容につきましては、9月には長野市において七久保地区の地すべりを見学会場とし、現地検討会が開催されました。七久保地区の地すべりは移動量が著しい地すべりであり、現地見学後の検討会では参加された皆さんから活発な意見が出され、熱心な討論が行われました。また、11月には名古屋市において、災害の緊急対応・警戒避難体制をテーマにシンポジウムが行われました。シンポジウムでは事例報告として、中部各県の近年の代表的な災害の状況とその緊急対応・警戒避難体制について発表していただき、今後の迅速かつ効果的な土砂災害対応に参考となる発表となりました。

今年度も、会員の皆様のご努力、ご参加により、技術向上に向けて活発な活動が展開されたことに改めて感謝いたします。今後とも、地すべり対策技術の向上に向け会員の皆さんの積極的なご協力をお願いいたします。

平成19年度は、8月28日～8月31日に三重県において、地すべり学会の研究発表会全国大会が予定されており、特に平成16年台風21号宮川村豪雨災害（現大台町）への現地視察も予定しています。中部支部においては大会の成功に向け、会員の皆さんとともに盛り上げていきたいと考えております。また、9月6日、7日には長野市において、地震による土砂災害をテーマに善光寺地震シンポジウムを開催します。みなさんのご理解とご協力をお願い申し上げます。



幹事長 原 義文  
(長野県土木部参事兼砂防課長)

# 平成 18 年度 (社) 日本地すべり学会中部支部総会

総務部 小野 和行

## プログラム

日 時 平成 18 年 5 月 19 日 (金) 14 : 30 ~ 15 : 00  
場 所 長野市サンパルテ山王

### ~~~~~ 総 会 ~~~~~

- 1 開 会
- 2 支部長挨拶
- 3 来賓挨拶
- 4 議長選出
- 5 議 事 . . . . .
- 6 支部新役員紹介
- 7 その他
- 8 閉 会

第 1 号議案 平成 17 年度事業報告に関する件  
第 2 号議案 平成 17 年度決算報告の承認に関する件  
第 3 号議案 平成 18 年度事業計画の承認に関する件  
第 4 号議案 平成 18 年度事業予算の承認に関する件

### ~~~~~ 講 演 会 ~~~~~

時 間 15 : 00 ~ 17 : 00  
場 所 長野市サンパルテ山王  
演 題 1 「新潟中越地震における妙見地すべりについて」  
講師 : (独) 土木研究所土砂管理研究グループ上席研究員 藤澤 和範氏  
演 題 2 「災害時の消防防災活動」  
講師 : 前長野市消防局長 宇都宮 良幸 氏

### ~~~~~ 意見交換会 ~~~~~

時 間 17 : 30 ~ 19 : 00  
場 所 長野市サンパルテ山王

# 「地すべり学会中部支部」アンケート結果の報告

## アンケートの目的

企画部 島田 千亜紀

平成 19 年は地すべり機構解明の研究や対策技術の向上を目的として（社）地すべり学会中部支部が発足して以来、10 年目を迎える年にあたります。これまでに中部支部ではいろいろな企画を立案し、研究発表会・シンポジウム・現地検討会・市民講演会・被災地での出前講座開催、関連学会行事への協賛等、活発な活動を続けてまいりました。

しかし、多くの他学会でも問題視されています「学会離れ現象」は、技術の継承を断絶させてしまう危機感を感じるとともに深刻であり、中部支部でもこの問題を重く受け止めています。

そこで、「地すべり学会中部支部がどのような形で社会貢献できるのか？」を検討していくにあたり、学会に対するニーズを探ることを目的としてアンケートを実施しました。

## 実施概要

今回のアンケートは、平成 19 年 2 月 7 日（木）に長野県辰野町で開催された「平成 18 年 7 月豪雨と上伊那災害」シンポジウムの参加者 700 名に対してアンケート用紙を配布し、記入を呼びかけました。

当日の参加者は主催者の予想を遥かに超える 900 人以上が集まり、聴講者層も一般参加・民間企業・行政関係者・消防団員等と幅広く平成 18 年 7 月豪雨に対する関心の高さがうかがえました。

〈アンケート回答率〉

187 名の参加者から回答をいただき、回収率はおよそ 27%でした。

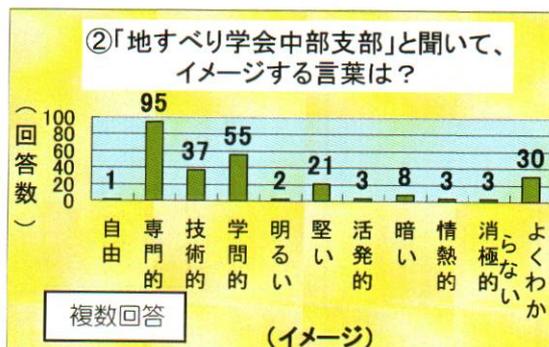
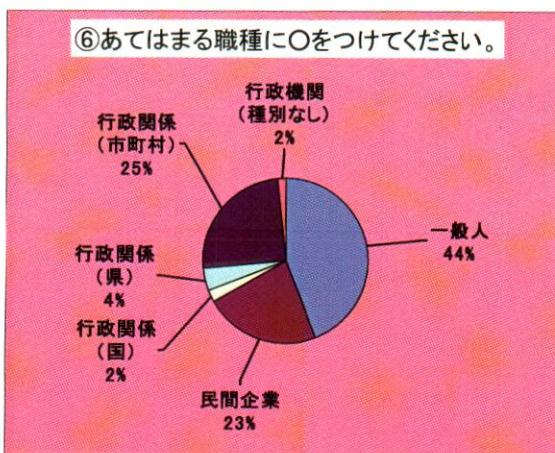
## 地すべり学会中部支部の知名度

「地すべり学会中部支部を知らない」という人が全体の 3/4 を占める結果となりました。

## 地すべり学会中部支部に対するイメージ

「専門的」が圧倒的に多く、次いで「学問的」、「技術的」と並び、肯定的な意味合いを持つキーワードが上位に並び結果となりました。

ただし、回答者の 3/4 が地すべり学会中部支部を知らない方たちであることから、このイメージには学会の活動内容等は考慮されておらず、単に言葉に対する回答者の直感的なイメージであると思われます。



### 活動内容の周知

「シンポジウム開催」の周知が 51% に及び結果となりました。今回のシンポジウム開催にあたり上伊那地域では市町村全域にチラシ、ポスターが配布されたことから共催団体としての、地すべり学会中部支部の事前周知に繋がった可能性が考えられます。

### 期待される社会貢献

「土砂災害発生予測」や「現場の危険度判定」といった災害発生前後における現場対応の姿勢が最も強く求められている結果となりました。

次に「対策アドバイス」や「知識普及活動」といった情報提供の姿勢が期待されています。

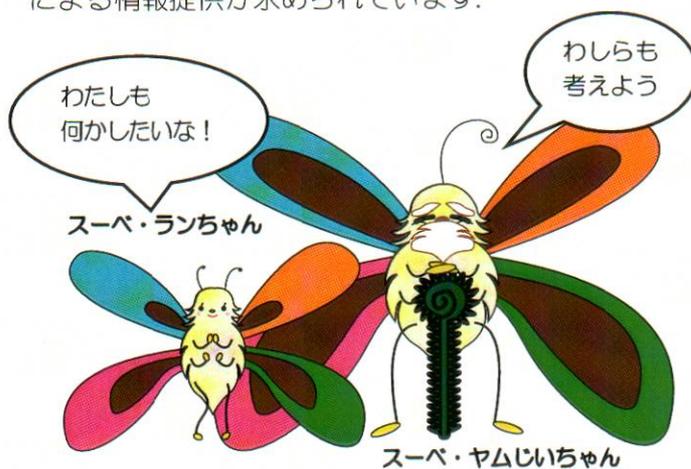
「その他」として得られた意見を以下に示します。

- ①避難基準の提示
- ②とにかく行政・一般への啓発
- ③地すべりばかりじゃなく、他の団体との連携

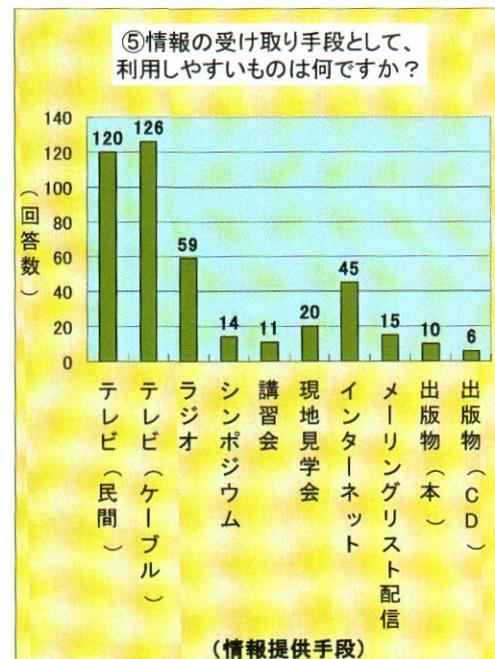
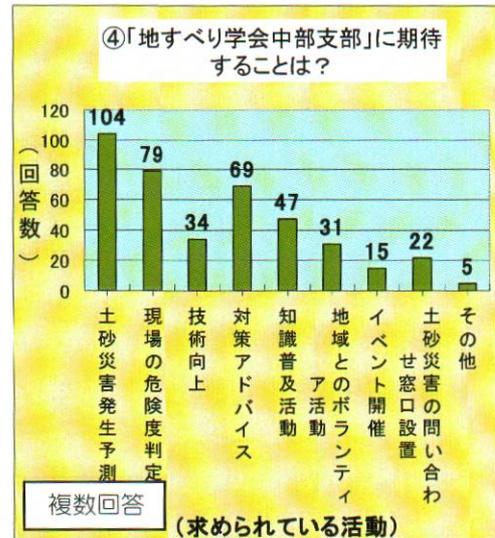
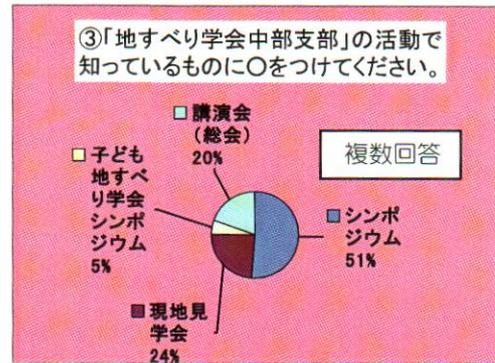
### 望まれる情報提供手段

地上波（民間や公共）・ケーブルを含めテレビでの情報提供を望む声が高いために非常に高い結果となりました。

次いで避難時の持ち物として、各市町村の防災マップ等で周知されている「ラジオ」や「インターネット」による情報提供が求められています。



以上の結果を反映して、今後「地すべり学会中部支部が出来ることってなんだろう?」という社会貢献に対するテーマへの活発な意見交換を通し、地すべり学会中部支部の活動を盛り上げていくことが求められています。学会員皆様の活発なご意見をお待ちしています!



## ま と め

アンケートの結果を反映して、「地すべり学会中部支部」ができるだろう社会貢献への活動内容について、今後の検討課題として整理してみました。

### ● 災害発生前後における対応

中部支部には「土砂災害発生予測」や「現場の危険度判定」といった災害発生前後における現場対応の姿勢が最も強く求められている。そこで、技術畑で活躍している学会会員の有志で体制表を作成し、市町村からの要望に応じてアドバイスできる窓口の設置や仕組みづくりはできないだろうか？

### ● ケーブルテレビを活用した情報提供

シンポジウムの中で小坂市長より伊那市は「人口7万人のうち1万人が避難した。そこでは、情報を求める声が多く、今年度からCATVへの割り込み放送で災害情報を流す協定も結んだ。避難所施設にもテレビの完備」と具体的な対応策を示された。

天竜川流域に位置する市町村（特に山間地域）では、ケーブルTVの整備率が高くデジタル化に向けた動きが進められている。ケーブルTVには行政チャンネルが設けられ、市町村からのお知らせ情報が提供されており、同時に市レベルでは総務省で実施されている。また「安心安全情報ネットワーク事業」の一環として、それらの内容が任意の登録者にメール配信されるサービスを展開している。

そこで中部支部として平成18年に土砂災害を経験し防災への意識が高まっていると思われる上伊那地方をモデルとし、平常時には土砂災害に関する知識の普及などをケーブルTVを活用して情報提供ができないだろうか？

### ● インターネットによる活発な情報提供、メーリングリストへの配信

今回の調査から受け取りやすい情報提供手段としてインターネットが挙げられています。また平成18年7月豪雨における伊那市の公式ホームページには、平常時のアクセス件数が通常1ヶ月に約2万件であるのに対し、豪雨災害発生の直後からの8日間で約60万件のアクセス件数であったことが報告されています。

インターネットを利用した地域住民や周辺地域の住民からの情報収集が一般的になってきていると思われるため、地すべり学会中部支部のホームページをリニューアルし、コンテンツの充実を図り、土砂災害にかかわる内容や関連するサイトへのリンクを充実させて中部支部を周知していくことが望めます。

例えばキッズコーナーや総合学習に取り組まれる先生たちをサポートするコーナーを設け、学校のホームページへのリンク許可をお願いし、平常時に社会のすそ野から土砂災害に対する関心を広げていくことはできないだろうか？

### ● 中部支部の会員どうしの情報共有と意見交換

月に1回・年に4回（季節ごと）程度のメール配信による情報提供を展開する。土砂災害に対する知識のみならず、学会会員による「技術屋さんのお仕事紹介」や「研究の面白さ」を身近に感じられる連載コーナーを通して「学会離れ」を改善する取り組みや、支部会員からの「技術レポート」などを盛り込んで会員全体が参加できる場を構築していくことはできないだろうか？

● 地すべり学会中部支部のイメージアップ

最後に今回のアンケート調査結果を有効に活用し「地すべり学会中部支部ができることって何だろう？」のテーマに活発な意見交換を行い、社会により身近な地すべり学会中部支部として活動を盛り上げていくことが求められていると思われます。

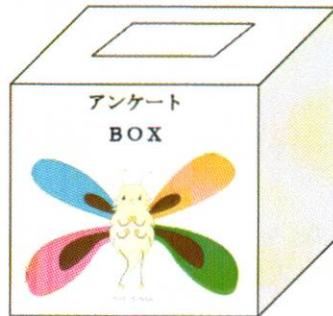
「専門的」・「学問的」という地すべり学会中部支部に対するイメージに、「活発的」・「情熱的」・「明るい」をプラスしていけたら良いと思います。

ご意見は担当幹事のメールアドレスまで→ [info@assist-zero.biz](mailto:info@assist-zero.biz) (担当者：島田)

アンケート様式

「地すべり学会中部支部」ができることってなんだろう？

アンケートにご協力ください！



ご記入いただいたアンケートは、  
お帰りの際に  
地すべり学会中部支部展示ブースにあります  
アンケート回収箱にお入れください。

あてはまる項目に○をつけてください。	
① 「地すべり学会中部支部」をご存知ですか？	知っている ・ 知らない
② 「地すべり学会中部支部」と聞いて、イメージする言葉は？	・自由 ・専門的 ・技術的 ・学問的 ・明るい ・堅い ・活発的 ・暗い ・情熱的 ・消極的 ・よくわからない
③ 「地すべり学会中部支部」の活動で知っているものに○をつけてください。	・シンポジウム ・現地見学会 ・子ども地すべり学会シンポジウム ・講演会（総会）
④ 「地すべり学会中部支部」に期待することは？	・土砂災害発生予測 ・現場の危険度判定 ・技術向上 ・対策アドバイス ・知識普及活動 ・地域とのボランティア活動 ・イベント開催 ・土砂災害の問い合わせ窓口設置 ・その他（ ）
⑤ 情報の受け取り手段として、利用しやすいものは何ですか？	・テレビ（民間 ・ ケーブル） ・ラジオ ・シンポジウム ・講習会 ・現地見学会 ・インターネット ・メーリングリスト配信 ・出版物（本 ・ CD-ROM）
⑥ あてはまる職種に○をつけてください。	・一般人 ・民間企業 ・行政関係（国 ・ 県 ・ 市町村）

ご協力ありがとうございました。

以上

## 地すべり現地検討会 一報 告一 「長野県 七久保地すべり」

～平成 18 年度 第 8 回 (社) 日本地すべり学会中部支部現地検討会を終えて～

日本物理探鑛株式会社 内田 克

(社) 地すべり学会中部支部では、平成18年9月11日に、長野県長野市の七久保地すべり地区において、現地検討会並びに討論会を開催した。以下、その概要を報告する。

### －プログラム－

- (1) 日時：平成18年9月11日(月)
- (2) 日程：日帰り1日 AM11:30JR長野駅前出発、PM5:00終了
- (3) 移動手段：中型観光バス2台を使用
- (4) 見学箇所：七久保地すべり(長野県長野市七久保地区)
- (5) 検討会会場：ホテルサンルート
- (6) 現地検討会行程表
  - 11:30 JR信越線 長野駅東口集合・出発
  - 12:00 七久保地すべりに到着・昼食
  - 13:00 七久保地すべり見学  
(案内：長野県地方事務所、日本物理探鑛(株))
  - 15:00 七久保地すべり見学終了・出発
  - 15:30 検討会会場到着、検討会開始  
(ホテルサンルート、)
  - 17:00 検討会終了、解散
- (7) 検討会 議事次第(議事進行：小野幹事)
  - 15:30 開会挨拶 北澤 支部長
  - 15:35 座長紹介
  - 15:40 管理者概要説明  
長野県長野県地方事務所環境森林チーム治山第二ユニット(現：林務課治山第二係) 宮沢豊治主査
  - 15:55 地すべり状況、変動状況、対策工の計画説明 日本物理探鑛(株)
  - 16:15 質疑応答
  - 17:00 閉会の辞



七久保地すべり位置図

### 一現地概要報告一

地すべり学会中部支部では、平成18年9月11日に長野県長野市の七久保地すべり地区において、現地検討会を開催しました。

今年で通算8回目となる現地検討会の参加者は45名でした。中型バス2台をチャーターして七久保地すべり地区を見学した後、ホテルサンルートにおいて検討会を開催し、無事に日程を終えることができました。

当日、13:00～15:00にかけて現地を見学しました。

七久保地すべり地区は、長野市の市街地から約西北西に約2km(長野県庁から約3km)に位置しています。

七久保地すべり地区は、昭和34年に地すべり指定され、農水省直轄地すべりとなりました。昭和54年に概成し、県の管理となりましたが、平成16年10月の台風23号による豪雨で、末端のDブロックが再活動しました。Dブロックの形状は、「く」の字に屈曲していることが特徴で、1年半余りで約80mの移動量(ブロック中央部での最大移動)を記録する移動量の大きな地すべりとなりました。

地すべり地の基盤は、新第三紀鮮新世～中新世の泥岩・砂岩からなっていますが、背後は馬蹄形状の集水地形となっており、安山岩、玄武岩の貫入岩体がある、キャップロック型の地すべり形状を呈し、移動速度の速い流動性地すべりとなっています。また、現在の移動ブロックの規模は、長さ550m、幅20～80m、標高差150m、最大すべり面深さ約13mとなっています。

当日は、地すべり末端が裾花川に押し出している状況や末端ブロックで施工中の縦型暗渠工の施工状況を見学し、生々しい亀裂などの変状を見ながら、屈曲部まで登って最上部ブロックの滑落崖や側方崖を見学しました。ここで、地形状況や変状、湧水、植生などから考えられる地すべり機構、対策について活発な議論が交わされました。

### 一検討会概要報告一

会場を市内のホテルサンルートに移し、15:30～17:00にかけて七久保地すべり地区について検討会が行われました。

検討会では、現地における踏査結果に基づき、次のような点を主題に意見が交わされました。

① 地すべり機構について(地すべりが屈曲し、移動量がきわめて大きいなどの特徴に関して)

② 地下水の供給源とメカニズムについて

③ 特異な地すべり機構と保全対象をふまえた対策工法について

また、特に対策工法については、

a. 地すべり上方での地下水排除について

b. 裾花川への影響に対する対策工法について

などについて活発に議論され、17:00に無事、全日程を終えることができました。

最後に、今回の現地検討会開催にあたりご協力いただいた、長野県森林づくりチーム(現林務部森林整備課)、長野県地方事務所環境森林チーム(現林務課)、並びに中部支部事務局と参加者全員の方々に深く感謝申し上げる次第です。



縦型暗渠工施工ヤードでの見学の様子



地すべり屈曲部での意見交換の様子

**平成18年度**  
**(社) 日本地すべり学会中部支部シンポジウム**  
**「災害の緊急対応・警戒避難体制について」**  
**(中部支部 7 県における活動の激しい地すべりの概要と緊急対応)**

中部支部長  
 (信州大学名誉教授) 北澤 秋司

1. 日時 : 平成 18 年 11 月 17 日 (金) 10 : 30 ~ 17 : 00  
 2. 場所 : 愛知県名古屋市天白文化小劇場 (地下鉄鶴舞線原駅 2 番出口すぐ)

### ◇ プログラム ◇

10 : 30	開会の挨拶 支部長挨拶	
10 : 40 ~ 11 : 00	平成 18 年度災害報告	北澤 秋司 支部長
11 : 00 ~ 12 : 00	これからの地すべり対策 ~砂防の目指すもの~	国土交通省中部地方整備局 伊藤 誠記 氏
13 : 00 ~ 13 : 20	愛知県大畑地すべり	愛知県建設部 原 勝 氏
13 : 20 ~ 13 : 40	石川県福水地すべり	石川県土木部 岡本美由紀 氏
13 : 40 ~ 14 : 00	岐阜県東横山地すべり	岐阜県県土整備部 三輪 哲司 氏
14 : 15 ~ 14 : 45	ポスターセッション (ポスター展示, 機器展示)	中部支部協賛会員各社
14 : 45 ~ 15 : 05	富山県谷屋地すべり	富山県土木部 釜谷 靖 氏
15 : 05 ~ 15 : 25	長野県駒込地すべり	長野県土木部 三井 康道 氏
15 : 25 ~ 15 : 45	三重県天ヶ瀬地すべり	三重県県土整備部 吉田 勇 氏
15 : 45 ~ 16 : 05	静岡県滝沢地すべり	静岡県建設部 鈴木 章郎 氏 応用地質 (株) 古宮 一典 氏
16 : 05 ~ 17 : 00	総合討論	

### - 開催趣旨 -

“災害は、忘れた頃にやってくる”とは寺田寅彦の言葉ですが、近年の中部地方は“災害が突然襲ってくる”状況になっております。

そして、人命を奪う災害が多発しております。

中部地方は、中・古生層から新生代までの地質で構成された地域であり、糸魚川静岡構造線や中央構造線の影響を受けた多様かつ特殊な地質環境にあるといえます。

また、太平洋側気候と日本海側気候と気象環境も多様で梅雨前線豪雨もしくは融雪災害に見舞われる地域でもあります。

さらに、平成 16 年の山古志村の災害は、地震災害の恐ろしさをまざまざと見せつけられました。災害は、えてして身に降りかからないと理解できない側面を持っています。

東海地震への対応が叫ばれる今日この頃、地震災害は他人事ではありません。

シンポジウムでは、このような状況を踏まえ“これからの地すべり対策～砂防の目指すもの～”を基調講演とし、事例報告として中部各県の多様な災害の中で近年の代表的な災害の状況とその緊急対応・警戒避難体制等について発表いただき、多様な地質・気象環境で災害に遭遇された行政担当者、研究者、防災技術者の経験を共有し、迅速かつ効果的な災害対応に活かされればと企画しました。発表は中部各県の代表的な地すべり事例より構成されています。

いざというときに、あわてないためにも皆さまの活発な討論をお願いできればと存じます。



シンポジウム開催状況

**(社) 地すべり学会中部支部 共催事業**

日時：平成 19 年 2 月 7 日

場所：辰野町民会館

**シンポジウム『平成 18 年 7 月豪雨と上伊那の土砂災害』—未来への提言—**

平成 18 年 7 月、日本列島を襲った集中豪雨により長野県内では 251 カ所で土砂災害が発生、死者 10 名という大災害となりました。中でも伊那建設事務所管内では 11 カ所で大規模な土砂災害が起こり、上伊那郡辰野町では 4 名の犠牲者がでました。

この災害の特徴を知り、安心して住める郷土づくりに役立てようと、平成 19 年 2 月 7 日、辰野町民会館でシンポジウム『平成 18 年 7 月豪雨と上伊那の土砂災害』—未来への提言—が開かれ、約 1000 人が熱心な討議に耳を傾けました。

また、地元の日赤奉仕団による昼食の炊き出しや、地すべり学会中部支部での防災機器の展示なども行なわれ、災害に備える防災意識を高めることができました。

主催者の挨拶に続いて基調講演が行われ、地すべり学会中部支部長で信州大学名誉教授 北澤秋司氏が「平成 18 年豪雨と土砂災害と題して次のように講演しました。

今回の災害では、どのような雨が降ったのでしょうか。辰野町の総雨量は、平均の 7 月月間雨量の 2 倍を超えています。また、17 日から 19 日までの一雨の中にピークが 2 つありました。こういう物凄い雨が降ると、どのようなことが起こるのでしょうか。

今回、崖崩れ、山崩れが発生したところは、大部分が天然林と人工林との境目のところでした。自然林化した流域では土石流は活発な動きはしません。溪流筋の人工林を切れば、やがてクリ・カエデ・コナラなどのかん木が茂り、土を押さえて土石流が緩和されます。

今回の豪雨で、岡谷市では昨年 3 月に完成した砂防えん堤が非常に有効に機能しました。防災施設を造るとはどういうことでしょうか。それは自然の急激な変化を、人間の生活の時間に合わせることです。地形の急激な変化を押さえ、水の流れを緩やかにして災害を起こさないためです。

川の上流は土砂を生産する地域で治山事業が、中流は土砂が流下する地域で砂防えん堤工事が、下流は土砂が堆積する地域で河川整備が必要です。日本の治水技術は適正で、高レベルと国際的にも評価されています。将来、上流がどうなるかを念頭に置きながら、流域の特性に合わせた配置が大切だと思います。

(中略) 休憩を挟んで、パネルディスカッション「不測の土砂災害にいかに備えるか」が、以下の出席者によって行われました。

- |           |                   |        |
|-----------|-------------------|--------|
| ・コーディネーター | 信州大学教授            | 平松 晋也  |
| ・パネリスト    | 伊那市長              | 小坂 樫男  |
|           | 辰野町長              | 矢ヶ崎 克彦 |
|           | 箕輪町長              | 平沢 豊満  |
|           | 長野県砂防課長           | 原 義文   |
|           | 伊那建設事務所長          | 松下 泰見  |
| ・コメンテーター  | 国土交通省河川局砂防部砂防計画課長 | 中野 泰雄  |



北澤 秋司 氏



平松 晋也 氏

まず災害時の対応について報告が行われ、伊那建設事務所の松下所長からは災害現場での捜索隊の安全確保について、伊那市の小坂市長からは市民約 1 万人に避難指示を出すという過去に例のない規模の災害であったこと、辰野町の矢ヶ崎町長、箕輪町の平沢町長からは時系列に沿っての具体的な対応が紹介されました。

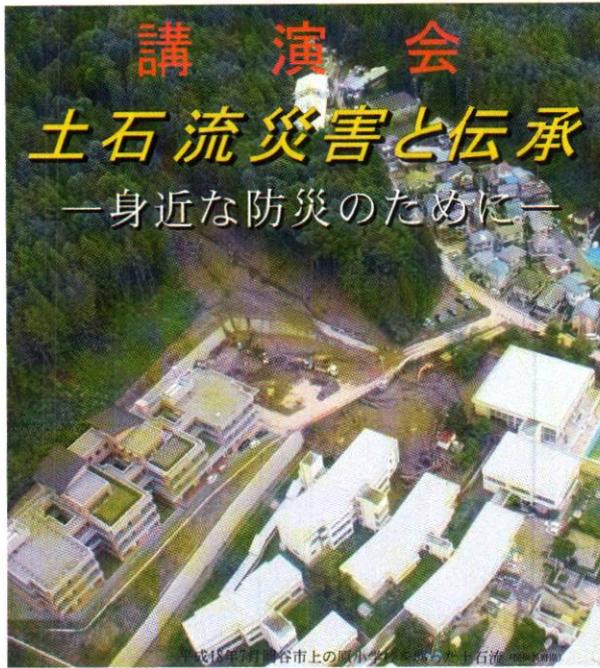


## 広 報 (その 1)

### 「平成 19 年度の (社) 日本地すべり学会中部支部講演会の開催について」

平成 19 年度の (社) 日本地すべり学会中部支部総会は 5 月 18 日 (金) に長野市内で開催されます。この総会にあわせて一般市民や技術者、行政担当者を対象に地すべり災害をはじめとした土砂災害知識の幅広い普及を目的とした講演会を開催しております。

今回は信州大学人文学部教授 笹本正治さまに「土石流災害と伝承—身近な防災のために—」と題して、語講演をいただく事になりました。



講演者 信州大学人文学部教授 笹本 正治氏

日時 平成19年5月18日(金) 15:00~17:00

場所 サンパルテ山王 〒380-8586 長野市岡田町30-20

会費 無料(聴講自由)

問い合わせ先: (社) 日本地すべり学会中部支部 電話026-284-0833

主催 (社) 日本地すべり学会中部支部 後援 長野県治水砂防協会

## 広 報 (その 2)

### 平成 19 年 度 事 業 計 画 (案)

年 月 日	活 動 及 び 行 事 の 内 容	備 考
H19. 4. 20 (金)	第一回事務局会議 (役員の選出・総会議案書検討)	
H19. 5. 9 (水)	「平成18年度7月豪雨土砂災害」シンポジウム (岡谷市文化会館)	(後援)
H19. 5. 18 (金)	(社)日本地すべり学会中部支部総会・支部運営委員会 講演会 「土石流と伝承」長野市 サンパルテ山王	
H19. 6. 下旬	長野県地すべり技術指針講習会 (長野県松本)	(共催)
H19. 7. 上旬	第二回事務局会議 (現地検討会・シンポジウム検討)	
H19. 8. 28 (火)	県民講演会 (三重県四日市市)	
H19. 8. 29 (水)~	第46回 (社) 日本地すべり学会研究発表会	
H19. 8. 31 (金)	現地見学会 (三重県四日市市, 大台町, 菰野町)	
H19. 9. 6 (木)	シンポジウム (長野県県民文化会館) 「地震による土砂災害の教訓を継承し現代に生かす」	(本部協賛)
H19. 9. 7 (金)	善光寺地震現地見学会	
H19. 10. 上旬	第三回事務局会議 (次年度計画・シンポジウム準備)	
H19. 9. 中旬	現地検討会 (静岡県内)	
H20. 2. 上旬	中部支部シンポジウム	
H20. 3. 上旬	第四回事務局会議 (本年度総括と次年度計画)	
H20. 3. 下旬	中部支部ニュース発行	

# 広 報 (その 3)

## 平成 19 年度 (社) 日本地すべり学会

### 第 46 回研究発表会 (主催 (社) 日本地すべり学会, 共催 三重県) 開催のお知らせ

- ・日時: 平成 19 年 8 月 28 日 (火) ~ 31 日 (金)
- ・場所: 三重県四日市市「四日市市文化会館」
- ・開催概要: プログラム

- 8 月 28 日 (火) 18 時~20 時 県民講演会 東京大学地震研究所 都司嘉宣  
「三重県にまつわる災害の変遷—地震・津波被害の歴史を訪ねて—」
- 8 月 29 日 (水) 9 時~12 時 開会式、表彰式、特別講演会  
13 時~17 時 研究発表会  
18 時~20 時 意見交換会
- 8 月 30 日 (木) 9 時~17 時 研究発表会、閉会式
- 8 月 31 日 (金) 8 時~17 時 現地検討会

- A コース: 大台町 (旧宮川村、伊勢市方面)  
平成 16 年台風 21 号豪雨災害 緊急地すべり対策箇所の見学
- B コース: いなべ市・菟野町 (御在所方面)  
朝明川の砂防施設や明治時代の石積み堰堤の見学

### 平成 19 年度 (社) 日本地すべり学会第 46 回研究発表会及び現地見学会



#### 現地見学会のご案内 平成 19 年 8 月 31 日 (金)

##### Aコース: 大台町 (旧宮川村) 方面

- 四日市都ホテル (8:00)
- 天ヶ瀬地区地すべり
- 領内地区地すべり
- 神園地区地すべり
- 伊勢神宮
- 近鉄宇治山田駅 (15:00)
- 津新港 (16:00)

##### Bコース: いなべ市, 菟野町 方面

- 四日市都ホテル (8:00)
- 小滝川砂防えん堤群
- 朝明川砂防えん堤群
- 御在所山
- 近鉄四日市駅 (15:00)
- 四日市港 (15:30)

#### Aコース: 大台町 (旧宮川村) 方面

平成 16 年 9 月に紀伊半島を襲った台風 21 号に伴う記録的な集中豪雨により、三重県各地では甚大な被害が発生しました。三重県内での死者・行方不明者は 10 名、住家被害は合計 5,956 棟にも及んでいます。最も被害が大きかった大台町 (旧宮川村) では、1 時間降水量 139mm (9/29 9:40) を記録し、特に宮川両岸で土石流や崩壊、地すべりなどの土砂災害が多発しました。Aコースの現地見学会では、この豪雨により地すべりが発生した天ヶ瀬地区と領内地区、他を見学します。



【発生当時の天ヶ瀬地区全景】



【対策施工中の天ヶ瀬地区全景 (H18.11)】

#### Bコース: いなべ市, 菟野町 方面

渓流や斜面の勾配が急な小滝川や西之貝戸川流域では、平成 10 年 7 月以降たびたび土石流が発生しています。三重県では、砂防設備の整備を進めることで、実際に発生した土石流を捕捉し、土石流から住民を守っています。朝明川の砂防は、明治 6 年 (1873 年) に来日したオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケらの指導による技術に基づき、県内でもいち早く明治 21 年 (1888 年) 頃に開始され、現在この谷には、明治の頃の空石積みえん堤から、県内初の石積みえん堤、現在のコンクリートえん堤まで、治山・砂防の変遷を示す多くの施設を見ることができます。



【西之貝戸川全景】



【土石流捕捉状況 (小滝川遊砂池)】



【小滝川スリットえん堤】



【土石流捕捉状況 (西之貝戸川)】



【県内初の練石積みえん堤 (大正 11 年) (登録有形文化財・平成 10 年 9 月指定)】



【なかだるみえん堤】

## 特別協賛法人 (7口)

3口

長野県治水砂防協会

1口

(社)地すべり対策技術協会中部静岡県支部

(社)地すべり対策技術協会中部長野県支部

(社)地すべり対策技術協会北陸石川県支部

(社)地すべり対策技術協会北陸富山県支部

(敬称略) (平成 19 年 4 月 1 日現在)

## 協賛法人 (45口)

1口

office アシスト・ゼロ

愛知時計電機(株)名古屋支店

(有)アルプス調査所

(株)アンドー

(株)アーキジオ

イノアック特材(株)

応用地質(株)長野支店

(株)オサシ・テクノス

小谷建設(株)

川崎地質(株)中部支店

関東地質(株)長野営業所

木村建設(株)

(株)キンキ地質センター名古屋支店

(株)建設コンサルタントセンター

(株)興和長野営業所

国土防災技術(株)静岡支店

国土防災技術(株)長野支店

国土防災技術(株)名古屋支店

五大開発(株)

(株)サクセン

(有)ソック

総合地質コンサルタント(株)

(株)東京電機

東名開発(株)

長野治山林道協会

日特建設(株)長野支店

日本エルダルト(株)

日本工営(株)信越事務所

日本工営(株)名古屋支店

日本工営(株)北陸事務所

日本総合建設(株)

日本物理探査(株)長野事務所

(株)ネブコ

(株)富士和

(株)北信ボーリング

北陽建設(株)

(株)北竜

明治コンサルタント(株)静岡支店

明治コンサルタント(株)長野支店

明治コンサルタント(株)名古屋支店

(株)守谷商会

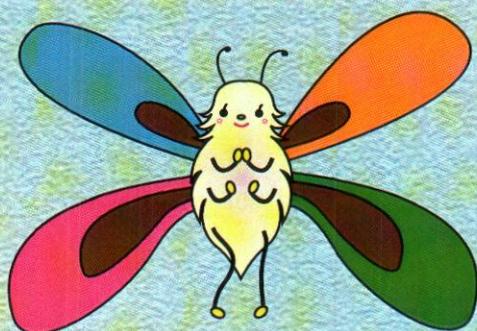
(株)理学

(株)ライテク

ロック建設(株)

鷺澤建設(株)

(敬称略) (平成 19 年 4 月 1 日現在)



ス〜ベ・ランちゃん

(地すべり学会中部支部キャラクター)

### 地すべり学会中部支部ニュース

〒380-8553

中部支部事務局

長野市若里 4-17-1

信州大学工学部社会開発工学科内

電話・FAX 026-284-0833 <http://w2.avis.ne.jp/~info-lsc/>

(企画・編集 飯沼達夫, 梅崎健夫, 中屋眞司)